

# 急性中耳炎

## ■症状について

耳の痛み、発熱が中心です。

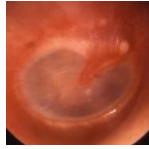
鼓膜の奥の中耳に炎症が起こって痛むようになり、膿がたまってくると中の圧力が高くなり鼓膜が腫れてきます。中には鼓膜の一部に穴が開いて、膿が耳だれになって出ることもあります。

右鼓膜

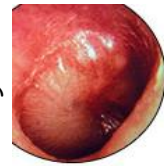


正常

軽度の充血  
ごく初期の  
中耳炎



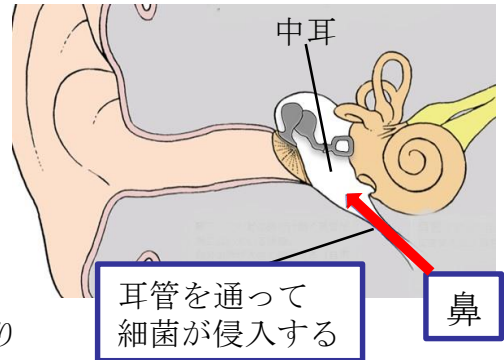
中耳に膿が溜まり  
鼓膜の腫れが強い



## ■原因について

急性中耳炎は細菌やウイルスが中耳に入って起こります。しかし、耳の穴（外耳道）の突き当たりには鼓膜があり、鼓膜を通して細菌が中耳に侵入することはありません。中耳と鼻の奥をつないでいる管（**耳管**）を通してノドや鼻にいる細菌やウイルスが中耳に入って急性中耳炎を起こします。

かぜをひいたり、鼻が多い時に急性中耳炎にかかりやすいのはこのためです。とくに、乳幼児の場合は耳管が成人より太短い構造であるために急性中耳炎を起こしやすいと考えられます。

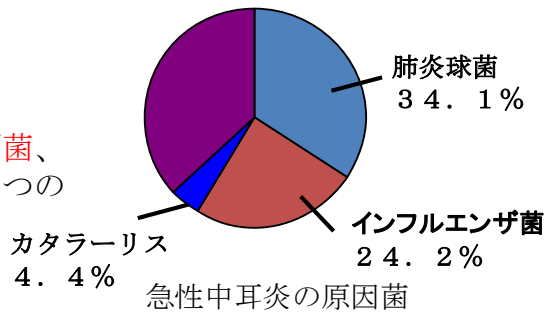


耳管を通して  
細菌が侵入する

鼻

## ■原因となる細菌について

急性中耳炎の原因になる細菌は肺炎球菌、インフルエンザ菌、カタラーリスが最も多いと報告されていますが、最初の2つの細菌で全体の約60%になります。



急性中耳炎の原因菌

## ■治療について

まず最初は**抗生剤**の内服と痛みや発熱に対する解熱鎮痛薬で治療します。この場合、急性中耳炎の上で示した細菌が多いことを考慮して抗生剤を選択することが重要です。しかし、経過をみながら薬を変更する必要が出てくることもあります。

もうひとつの治療手段は**鼓膜切開**です。鼓膜切開については次の項で詳しく説明します。

原因のところでも書きましたが、急性中耳炎はかぜや鼻の調子が悪い場合に起こりやすいので、その治療も非常に大切です。

## 鼓膜切開について

鼓膜切開で耳に悪い影響が出ることは通常ありません。

鼓膜切開は急性中耳炎の場合、どの患者様にも行うわけではなく、鼓膜所見や症状などからその必要性を判断します。すなわち、熱が高く、耳痛が強い、中耳に膿がたくさん貯留していて鼓膜が腫れが強い、などの場合に鼓膜切開をすることを考慮します。切開してたまっている膿が出た方が痛みや発熱などの症状が楽になることが多いと言えます。

<鼓膜切開が必要と考えられる場合>

- ・ 耳痛、発熱が著明
- ・ 中耳に膿が多く貯まっていて、鼓膜が非常に腫れている
- ・ 抗生剤の効果が充分でない
- ・ 中耳炎を繰り返している

<鼓膜切開による危険性について>

最も問題となるのは、切開した穴がそのまま残ってしまうことでしょうか。しかし、このようなことは非常にまれで、通常は穴が残ることはほとんどありません。

“鼓膜切開をすると中耳炎が癖になるのではないか”という質問を時々聞きますが、鼓膜切開を行ったために中耳炎にかかりやすくなることはないと言えます。繰り返し中耳炎にかかりやすいのは乳幼児の耳管の特徴によるものです。



### 鼓膜切開の長所と短所

#### 長所

- ・痛みや発熱などの症状が改善しやすい
- ・中耳の換気ができ、粘膜の炎症による腫脹などが改善しやすい
- ・聴こえがよくなる
- ・抗生剤の効果が期待しやすい
- ・貯まっている膿の細菌検査が可能になる

#### 短所

- ・切開の際に痛み伴うことがある
- ・耳漏が出る（実際には心配ありません）
- ・切開部がすぐに閉じてしまい、何度か必要なことがある
- ・まれに鼓膜に穴が残る

### 当院での急性中耳炎の治療方針

①まず急性中耳炎に多い原因菌を想定して抗生剤を3～5日投与します。

2回目の診察時に

②完全に治癒の場合



治療終了

③改善しているもの  
所見が残っている場合



同じ抗生剤を  
あと3～5日追加

④症状や所見が改善なく、  
抗生剤の効果が弱い



抗生剤の変更  
細菌検査を行い、原因菌の同定と  
抗生剤の感受性検査

⑤治療期間中は症状、所見から必要に応じて鼓膜切開を考慮。鼻の治療などを合わせて行う。